



新教出版社 出版通信

2023年
2月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198
ホームページ: <http://park11.wakwak.com/~shinkyō/>



著者: Bernhard Word

Anderson、1916-2007。

1939年メソジスト教会で按手。

1945年イエール大学で旧約

学により博士。コルゲート大学、ドルー大学、

プリンストン神学校などで教鞭をとる。引退

後もボストン大学で講師を務めた。考古学から

文献学にいたる旧約聖書神学の広範な領域

で多くの業績を残している。邦訳に『新しい

創造の神学——創造信仰の再発見』（高柳富

夫訳、教文館、2001年）などがある。

【目次より】

第1部 民の創造

- 第1章 イスラエルの始まり
- 第2章 束縛からの解放
- 第3章 荒野野での契約
- 第4章 約束された土地
- 第5章 全イスラエル物語の形成
- 第6章 信仰と文化の闘争

第2部 諸国民のようになる イスラエル

- 第7章 ダビデの王座
- 第8章 イスラエルを悩ます預言者たち
- 第9章 おとめイスラエルは倒れた
- 第10章 死と契約するユダ
- 第11章 モーセ律法の再発見
- 第12章 国家の滅亡

第3部 契約共同体は再建される

- 第13章 バビロンの水のほとりにて
- 第14章 新しい時代の夜明け
- 第15章 祭司たちの王国
- 第16章 イスラエルの賛美
- 第17章 知恵のはじめ
- 第18章 未完の物語



旧約聖書

物語られた歴史

B・W・アンダーソン [著] / 高柳富夫 [訳]

◆ A5判・872頁・定価7370円

1月25日発売

激動の歴史の中で神を尋ね求めた人々の言葉を読み解く
 1957年の初版以来5度におよぶ改訂を重ね、今日にいたるまで半世紀以上も旧約
 入門・概説書として絶大な信頼を得ている名著。著者の流麗な筆致は、歴史的研究、
 考古学的調査、文学批評、聖書神学をひとつの「物語」に編み込み、900頁近い大
 著ながら、読者を巨大で複雑多様な旧約の世界に引き込んで飽きさせない。
 ＊33個の小コラムⅡ【定義】が随所に配され、重要概念を解説して理解を助ける。

● 11月刊行

共観福音書 下

カルヴァン新約聖書註解Ⅱ

森川甫・吉田隆訳

◆A5判・定価・並製 6600 円／上製 7920 円

福音書の「調和」を見出そうとしてマタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら註解する。改革者の聖書釈義の真髄を示す書。上巻から 38 年を経てついに完結。
*上巻はオンデマンドブックで入手可能 (定価 6270 円)



● 10月刊行

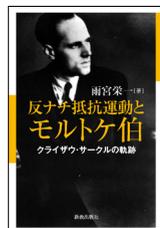
反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

クライザウ・サークルの軌跡

雨宮栄一著

◆四六判・定価 3850 円

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシュタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。彼が反ナチの思想と行動に至るプロセス、特にそのキリスト教信仰を丹念に追う。著者の遺作。



● 10月刊行

良き力に不思議に守られて

講演・説教・論考

宮田光雄著

◆小B6判・定価 1540 円

単行本未収録の珠玉の説教 5 編のほか、民話によって神と出会う可能性を考察した「メルヘンの森で神と出会う」、神表現の極限を追求した美術家バーネット・ニューマンを巡る論考など 7 編を取録。



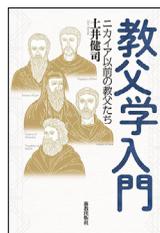
● 9月刊行

教父学入門 ニカイア以前の教父たち

土井健司著

◆四六判・定価 2420 円

使徒教父、弁証家、アレクサンドリアのクレメンスやオリゲネス、テルトリアヌスにキプリアヌス等、また古代文献に表れた女性たちも視野に収めながら、教父たちの世界へと興味深いいざなう類書のない門書。



ミーシャ・リヒター作／みつじまちこ訳

エリックとマチルダ

ユキガチヨウのエリックは可愛い女の子を見そめて彼女の気を惹こうと様々な策を凝らすが反応はない。途方に暮れた彼に森の賢者が与えたアドバイスは……。ウクライナからアメリカに移民し、「ニューヨーク」で人気を博した漫画家の描く、愛の伝え方をめぐる傑作絵本。 A4判・予価1900円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第二次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキメニカルな場で活躍した激動の生涯。 四六判・予価3500円

鬼頭葉子著

動物という隣人 共感と宗教から考える動物倫理

我々にとって動物とはどのような存在であるか、動物への倫理的配慮はいかにして可能か。従来の動物倫理論に潜む人間中心主義を克服すべく、哲学とキリスト教神学の両面からこの問いの答えに接近し、動物への共感とアガペーに基づく新たな動物倫理を構想する。 A5判・予価5900円

● 12月に出た本と雑誌

ロゴセラピーと物語

勝田茅生著 フランクルが教える〈意味の人間学〉



フランクルの創始したロゴセラピーの中心メッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。様々な生きにくさを抱えるすべての現代人に贈る〈希望の書〉。

◆小B6判・定価1760円

旧約聖書入門4

大野恵正著 現代に語りかける歴史書



この巻は旧約歴史書の二つの系譜を取り上げ、ヨシユア記、士師記、サムエル記上下、列王記上下、歴史誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、ルツ記、エステル記から、民の離反と神の憐れみを読み取っていく。

◆小B6判・定価2090円

福音と世界

◆定価660円

1月号 当事者が社会を変える

寄稿者…片岡輝美、島しづ子、吉岡卓、工藤律子、田上孝一、

雨宮処凛／岩名定道／好評連載 山下壮起、C・J・

サンダース&A・ヤーバー、山口陽一、山崎ランサム和

彦、田崎英明、村澤真保呂、勝村弘也、有住航

『福音と社会』の谷口幸紀氏の記事について

最近SNSで「一瞬『福音と世界』かと思っただけだった」といった発言がいくつも見られ、調べてみると、誌名が似た『福音と社会』三三三・三二四号（カトリック社会問題研究所）の記事のことでした。『福音と世界』でも紹介した「LGBTとキリスト教」（日本キリスト教団出版局）をカトリック司祭の谷口幸紀氏が書評しているのですが、その内容がトランス差別的だと批判されているのです。記事を読んだわたしも、同じ感想を抱きました。LGBTとりわけトランスジェンダーの存在を容認する「風潮」に、生物学や心理学を参照して警鐘を鳴らすというのが大筋ですが、その各種知見の引き方は恣意的なもの。たとえば、性を男／女の二項対立ではない連続体として捉える認識は生物学でも決して少数意見ではありませんし、異性間の生殖に収まらないセクシュアリティの多形性を論じてきたのは心理学（精神分析）だったはず。それを看過し、トランスジェンダーを詐称した男性による性犯罪の危険性を言い募る論法は、作家アルベール・ミッシェル以来の差別の定義（現実の、あるいは架空の差異に、一般的、決定的な価値づけをすることであり、この価値づけは、告発者が自分の攻撃を正当化するために、被害者

を犠牲にして、自分の利益のために行うもの）を満たして余りあります。それを支える土台は、記事で言う「神のみ旨」なのでしょう。ですが、その土台自体も再考されるべきです。たとえば、トランスジェンダーの経験を、詩人アンソニー・カウエルソンの言葉に引きつけて記述する論文があります（Jacob R. Lau, "Transism as Decreation"）。神の自己放棄に倣い、力の行使を差し控える「脱創造」に着想を得たこの研究は、性別二元論的な権力に従って行わないことを、ヴェイユの思想の延長線上で示唆します。記事は今日の「風潮」を「闇の力」なるものと関連づけますが、ここで力をふるっているのは誰か。答えは明らかに思えます。とはいえわたしは、自分がその力を免れていると言いつもりありません。力からの離脱は、『福音』と『社会』『世界』の交差点における果てなき課題なのだと思います。ヴェイユは、その課題に対する自らの限界を認めつつも、学に学び、人に学ぶことを生涯やめませんでした。わたしもそうありたいと思いますし、『福音と社会』と谷口氏も、多くの批判の声に学んで自身の言論を省察してほしいと強く願います。（堀）

福音と世界

2023年
2

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集：何が「われわれ」をつくるのか

（共感）をめぐって

差別を作り変え、継続させているのは

誰なのか 阿久澤麻理子

「学びほぐし」による「共感」のつくり方を

つぐむ 風巻浩

「われわれ」への叛逆 子ども・若者の

全体性と自由 桜井智恵子

歴史的につくられ強化されるレイシズムを

自覚する 原由利子

教会が神に立ち返るために アメリカ日系

人のストーリーズ ジェシカ・カワムラ

「われわれ」からの追放の果てに

——要求される共感を越えて——渡邊さゆり

『座談会』教会の人事とジェンダー問題

『書評』クワツサン『最も偉大な祈り』…福嶋揚

『好評連載』

◆フッド・スピリチュアルズ 8 ……山下壮起

◆教会におけるマイノリティ 10 サンダース、ヤルバー

◆「日本的キリスト教」を読む 13 ……山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 14 ……山崎ランサム和彦

◆間隙を思考する 非同時代性のために 23 ……田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 24 ……勝村弘也

◆福音のフラグメント 25 ……有住航